

■冬休みで「グン」と伸ばそう！

大学入学共通テストまであと約 20 日、近づいてきて緊張している人、公募制推薦で思ったような結果が出なくて焦っている人、成績が伸びなくて悩んでいる人、いろんな人がいると思いますが、まず一つ言えることは「もう大丈夫」「何も不安はない」と感じている受験生は全体の1%もないということです。受験生は誰しものが不安を抱えています。隣の席の友達でも「実力通りに力を発揮できるだろうか」と心の底では不安に感じているかもしれません。だから、成績が伸びない、結果が出ないと焦っているのはあなただけではないということです。

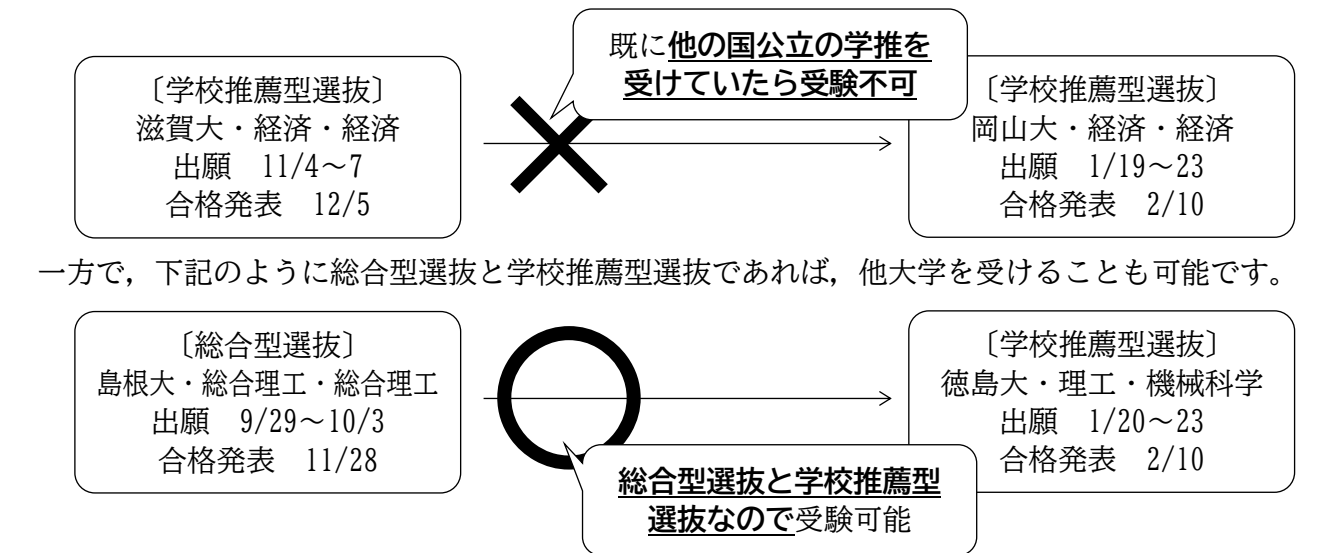
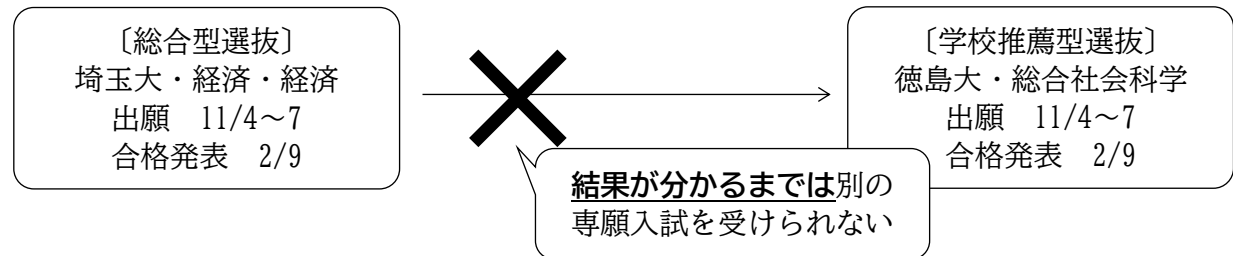
また、私立大学の公募制推薦で残念ながら不合格となって落ち込んでいる人もいますが、近畿大・経営学部・経営学科なら倍率 9.3 倍，9 人に 8 人は不合格。甲南大・法学部・法学科なら倍率 6.6 倍，7 人に 6 人は不合格です。つまり、公募制推薦で不合格になっているのはあなただけではありません。合格を勝ち取れた人は素晴らしいですが、不合格になった人は、何がダメだったのか、どこを改善すれば一般受験で合格できるかを分析・把握する必要があります。

過去の本校のデータをみると、模試のベストから 1 科目あたり 10 点以上伸びたという生徒もいますが、そのような生徒はこの 12 月・1 月に戦略的に勉強をしていたように感じます。入試に必要なことの頻度が多い科目・苦手科目・今後の伸びが期待できる科目などいろいろな要素がありますが、自分が今、何をすべきなのかをしっかりと分析して、この冬休みを頑張りましょう。

■共通テスト後の学校推薦型選抜を活用しよう！【国公立大編】

国公立大学の学校推薦型選抜(一部大学では総合型選抜も)の中には、共通テスト後に出願できるものがあります。そして、その学校推薦型選抜は一般入試で受けるよりも共通テストの合格最低点が低かったり、入試科目数が少なかったりします。そのため、自分が進学したい大学の中に共通テスト後の学校推薦型選抜があれば、出願することを強くオススメします。ただし、学校推薦型選抜には出願条件以外にもいくつかの制約がありますので、注意してください。

まず、国公立大学の学校推薦型選抜は専願です。また、学校推薦型選抜に出願できる大学・学部・学科(・専攻やコースも含む)は1つのみです。以下のような出願はできません。



一方で、下記のように総合型選抜と学校推薦型選抜であれば、他大学を受けることも可能です。

また、兵庫県の近隣県で共通テスト後に出願できる大学を掲載しています。気になる大学がありましたら、募集要項などで調べるようにしましょう。

大学名	学部名	出願締切
京都工芸繊維大	工芸科学部	1/21～28
兵庫県立大	工学部	1/15～22
鳥取大	地域学部－国際地域/工学部	1/20～23
岡山大	経済学部	1/19～23
香川大	法学部/経済学部/創造工学部/農学部	1/19～23
徳島大	総合科学部/理工学部/医学部/歯学部/薬学部/生物資源産業学部	1/20～23

■私立大は共通テスト併用が狙い目！

私立大は共通テスト併用が狙い目です。例えば、近畿大・経営学部・経営学科に合格したい……と思った時に、近畿大の入試には大まかには、個別試験・共通テスト利用・共通テスト併用の3種類の入試があります。その中でも共通テスト併用はとくに狙い目です。次の表は近畿大・経営学部・経営学科の前期A日程の入試方式と入試科目・合格最低点です。(2025 年度入試結果)

入試方式	科 目	合格最低点		
		満点	1/25	1/26
個別試験	外国語・国語・世界史 or 日本史 or 地理 or 政治・経済 or 数学	300	186	187
共通テスト併用	個別試験の高得点科目を 150 点満点に+共通テストの高得点科目 2 科目	350	228	227

個別試験の合格ボーダーは約 62%です。共通テスト併用は 65%と一見、共通テスト併用の方がボーダーは高そうにも感じますが、個別試験では平均して 62%をとる必要がありますが、共通テスト併用は「個別試験の高得点科目が1教科」と「共通テストの高得点科目が2科目」ですので、「得意な科目を中心に 65%」ということです。実は倍率も経営学部・経営学科の個別試験入試のスタンダード方式の倍率は約 8 倍ですが、共通テスト併用方式の倍率 2 倍となり、多くの大学では共通テスト併用の方が倍率も低いです。ですので、個別試験を受ける人は一緒に共通テスト併用を受けてみると、可能性が広がります。これは近畿大以外の多くの大学にも当てはまるので、出願を検討してみてください。